



館長だより

山形県産業科学館

令和 7 年 5 月 1 4 日 (水)

発行 館長 加藤 智 一

やまがたフルーツ 150 周年

種本 2025.6 gatta!

果樹王国として名高い山形ですが、ルーツは明治時代、1875 年 (明治 8 年) 当時の県庁敷地に植えられた果樹の苗木 10 種がその始まり。そこから数えて今年でちょうど 150 年にあたります。県では、企業や市町村などとタイアップして、様々なプロジェクトが進行中です。その一つが、8 月 8 日～10 日に、ビッグウイングで開催される「やまがたフルーツ EXPO」。その中で実施予定なのが「フルーツ・サイエンス」。フルーツと科学を関連付けた催しになるそうです。

西洋果樹の導入が国の主導で始まったのは明治時代。山形でも本格的な栽培がスタートしました。昼夜の寒暖差といった山形の自然条件が後押しして、多彩な果物が根付いていきました。特に 1912 年 (大正元年) 東根市の佐藤栄助氏が「佐藤錦」の育成を開始して以降、ナポレオンをはじめとする様々品種が登場し、「やまがたと言ったらさくらんぼ」と言われるほどに一大ブランド化が進みました。はじめは缶詰などの加工品が主流であったものの、技術革新や流通インフラの整備によって次第に生食向けが拡大。今では、ギフト用果物として、国内のみならず海外へ輸出され、国際的に期待されている存在となりました。ところでみなさんは、大玉品種「やまがた紅王」食べました? ウンメイぞ!! 190 g 30,000 円



ガラ軽

2025. 5. 13 山形新聞より

「ガラケー」と言えば、ピンとくるのが「折りたたみ式の携帯電話」なんて言う方はもはや時代遅れ! 今、「ガラケー」と言えば「ガラパゴス軽自動車」で「ガラ軽」。こっちの方が「トレンドィー」何て言っ

ている人の方が「オヤジ」だったりして (今の若者は自動車にあまり興味がないらしい)。そのへんの所はどうでも良いのですが、そもそも「ガラパゴス」とは「ガラパゴス諸島」からきている言葉で、大陸と陸続きになった歴史がないため独自の生態系を維持してきたことから、生き物は独自に発展・進化してきたと言われていています。そのあたりが、ワンセグ、おさいふケータイ機能、赤外線通信など、日本独自の機能テンコ盛りなところから「ガラパゴス携帯」=「ガラケー」となっらしい。

これから主流になるかもしれない「ガラ軽」とは、いわずと知れた排気量 660cc 以下で、日本独自の規格で製造されている軽自動車です。これがなんとスリランカで爆売れしているらしく、現地では中古にもかかわらず、高額で取引されていると言います。スリランカは日本と同じ左車線ですので右ハンドル車を売りやすいという事情もあるのでしょうか。それに加えてスリランカでは、輸入する中古車については、車齢を新車登録から 2 年以内とする規則が導入されています。日本では、登録から 2 年以内の軽自動車の中古車市場にたくさん流通しているのが購入しやすいということもあるようです。また日本では、低燃費車やハイブリッド車は、関税が引き下げられる措置があり、加えて排気量 1000cc 以下の中古車の輸出関税が引き下げられたことで、660cc 以下の軽自動車の輸出に拍車がかかったと思われる。

こんな日本の「ガラ軽」市場に目を付けたのが、中国の自動車大手 BYD。軽の電気自動車を日本市場に投入することになりました。日本では、BYD の車をほとんど見かけませんが、世界的に見たら BYD の販売台数は、ホンダを抜いて世界第 6 位。日本では近年、日産自動車の「さくら」以外、軽乗用車タイプの電気自動車あったっけ? 売れるかな? お手並み拝見。

